

令和 7 年度

(令和 7 年 4 月 1 日より令和 8 年 3 月 31 日まで)

事業報告

公益財団法人 高松宮妃癌研究基金

東京都港区高輪一丁目14番15号102

目次

第1章 概況	1
第2章 事業の状況	
1. 研究助成金の贈呈	1
2. 高松宮妃癌研究基金学術賞の贈呈	2
3-1. 高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムの開催	2
3-2. 他の学術団体主催の国際シンポジウムの助成	3
4. 国際講演会の開催	3
5. AACR 高松宮妃記念講演会開催の助成	4
6. 機関誌「CANCER」の発刊	4
7. 運営体制の充実をはかるための取組	4
第3章 管理事項	
1. 会議等に関する事項	
(1) 令和7年度第1回理事会 (通常)	6
(2) 令和7年度第1回評議員会 (定時)	6
(3) 令和7年度第2回理事会 (臨時)	7
(4) 令和7年度第3回理事会 (臨時)	7
(5) 令和7年度第1回学術委員会	7
(6) 令和7年度第4回理事会 (臨時)	8
(7) 令和7年度第5回理事会 (通常)	9
(8) 令和7年度第2回評議員会 (臨時)	9
2. 内閣府公益認定等委員会への報告、申請等に関する事項	10
3. 内閣府からの連絡事項等	10
第4章 受取寄附金に関する事項	10
第5章 附属明細書	
表1 令和7年度研究助成金受領者名簿	12
表2 令和7年度高松宮妃癌研究基金学術賞受賞者名簿	15

第1章 概 況

令和7年度は、前年度に続き公益目的事業1～5および機関誌「CANCER」の発刊を全て実施することが出来た。

公益目的事業のうち、がん研究者への研究助成金の贈呈と高松宮妃癌研究基金学術賞の贈呈は、コロナ禍においても継続してきた事業であり、都内ホテルで開催された研究助成金・学術賞等贈呈式には、常陸宮妃華子殿下のご臨席を賜り、学術賞受賞者や研究助成金受領者にとってさらに意欲を持ってがん研究に取り組む決意を新たにする日となった。

海外から講演者を招聘し、国内研究者も加わり実施された国際シンポジウムは、今年度より会場が変更され、過去最大となる二百数十名に及ぶ多数のがん研究者が一堂に会して開催された。講演では、最新研究の成果を含め熱のこもった討論が展開された。晩餐会には常陸宮妃殿下にお成りいただき、外国人講演者にも親しくお言葉を賜ることが出来た。

前年度に続き米国の著名ながん研究者をお招きした国際講演会が東京・大阪・名古屋の3か所で開催され、講演会に参加した多数の若手のがん研究者にとって講演の聴講とそれに続く活発な質疑を通して今後の研究活動の糧となる貴重な経験になった。

当事業年度収支の経常収益については、株式配当及び債券利息等収入が合計193,055千円で、前事業年度比10.3%増（前年度175,017千円）であった。公益目的事業への使用が指定された指定正味財産増減の部の受取寄附金は、個人から2千万円を超える大口の遺贈があった他、他の個人ならびに法人から複数のまとまった寄附をいただいた。また、学術委員を始め財団関係者が寄附による財団支援について積極的な呼びかけを行った結果、新規に多数の個人寄附を受け入れることが出来、寄附金合計額は64,009千円（前年度31,070千円）と期初予算の27,000千円の2.4倍に迫る実績を計上した。

当事業年度は、例年の研究助成金・学術賞の贈呈や国際シンポジウム開催を含む全ての公益事業を実施することが出来たが、収入面で上述のとおり受取寄附金の大幅増が寄与し、公益目的事業収支の赤字補填のための公益事業資金の取り崩しを行うことなく、決算を終了することが出来た。その結果、当事業年度の経常収益合計は、前事業年度比7.4%増の258,766千円（前年度240,914千円）となった。

経常費用については、研究助成金の贈呈及び学術賞の贈呈、国際シンポジウム開催や国際講演会実施の費用等を含め、合計で前事業年度比2.9%増の245,787千円（前年度238,815千円）となった。

以上の結果、当事業年度の一般正味財産の当期増減額は、12,979千円の黒字（前年度2,099千円の黒字）となった。

第2章 事業の状況

1. 研究助成金の贈呈（定款第4条第1項第1号）（公益目的事業1）

当事業年度の応募件数は257件であり、学術委員会における慎重な選考で39件が採択された。受領者の氏名、研究題目等は、第5章・附属明細書・表1に記載のとおりである。1件当たり200万円を贈呈した。

学術委員会は、令和7年12月4日（木）に開催され、選考結果は、12月18日（木）付の理事会で承認された。

学術賞・研究助成金等贈呈式は、令和8年2月20日（金）、グランドプリンスホテル高輪（東京都港区）で挙行了た。

2. 高松宮妃癌研究基金学術賞の贈呈（定款第4条第1項第2号）（公益目的事業2）

当事業年度の推薦件数は14件13名であり、学術委員会における基礎研究、臨床研究領域から各1件の原則に従った慎重な選考の結果、各領域から1件の2名が決定された。

1件当たり本賞の楯と副賞500万円を贈呈した。

受賞者の氏名、研究業績等は、第5章・附属明細書・表2に記載のとおりである。

学術委員会における受賞者の選考、理事会の承認及び贈呈式は、上記1.の研究助成金の贈呈と併せて行われた。

3-1. 高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムの開催

（定款第4条第1項第3号、第4号）（公益目的事業3）

第53回高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムを次のとおり開催した。3日間、講演者29名、討論者240名が一堂に会し、秘密保持誓約のもと未公開データを含む成果発表に対する活発な質疑応答が続き、シンポジウムは成功裏に終了した。

（1）国際シンポジウム

テーマ：進化するがん免疫

会期：令和7年11月11日（火）～13日（木）

会場：グランドプリンスホテル高輪（東京都港区）

組織委員長：西川 博嘉 博士 国立がん研究センター研究所
腫瘍免疫研究分野長

組織委員：Sacha Gnajatic 博士 マウントサイナイ・アイカーン医科大学教授
間野 博行 博士 国立がん研究センター理事長
大谷 直子 博士 大阪公立大学大学院医学研究科教授
龍谷 勇紀 博士 慶應義塾大学医学部先端医科学研究所教授

招待演者：海外20名（米国 15名 フランス スイス 各2名
シンガポール 1名）

国内9名

討論者：240名

（2）中原記念講演賞

第19回中原記念講演は、本シンポジウムの特別セッションにおいて行われ、質疑応答も活発な講演であった。講演終了後、講演者には、記念の楯の送付と副賞50万円が贈呈された。

講演者：Jedd D. Wolchok 博士

米国・ワイル・コーネル医科大学医学部サンドラ・アンド・
エドワード・マイヤーがんセンターディレクター

演 題：標的同定・代謝制御・疲弊抵抗性を介した固形腫瘍に対する
T細胞療法の進展

3-2. 他の学術団体主催の国際シンポジウムの助成

(定款第4条第1項第3号、第4号)(公益目的事業3)

下記の日本癌学会が実施した国際シンポジウムに対し助成を行った。

第84回日本癌学会学術総会における JCA-AACR Joint Symposia

テーマ1：“Early Cancer Evolution and prevention-crossroad of genomics
and biology (がん初期発生の生物学と予防)”

[座長] 小川 誠司(京都大学大学院 医学研究科腫瘍生物学講座)
Laura Wood (Johns Hopkins University)

テーマ2：“Spatio-temporal regulation of cancer phenotypes by cancer
epigenetics (がんエピゲノムと表現型の時空間的関連)”

[座長] 近藤 豊(名古屋大学大学院医学系研究科腫瘍生物学)
Kristian Helin (The Institute of Cancer Research)

会 期：令和7年9月25日(木)～27日(土)

会 場：石川県立音楽堂

助成額：500万円

4. 国際講演会の開催(定款第4条第1項第3号、第4号)(公益目的事業4)

第41回国際講演会を次のとおり開催した。

第1回講演会に先立ち表彰式が執り行われ、山口理事長より講演者に対し、楯が
授与された。

講 演 者：Dr. Allan Balmain

米国・カリフォルニア大学サンフランシスコ校

ヘレン・ディラー・ファミリー総合がんセンター教授

演 題：進化の視点から発がんの初期段階と進展過程を捉え直す

受入責任者：千葉県がんセンター研究所 筆宝 義隆 博士

開催地及び：東京／千葉県がんセンター研究所 筆宝 義隆 博士

開催責任者 大阪／大阪公立大学 鰐渕 英機 博士

名古屋／名古屋市立大学 高橋 智 博士

日 程：令和7年4月17日 第1回講演会(国立がん研究センター)

令和7年4月21日 第2回講演会(大阪公立大学)

令和7年4月24日 第3回講演会(名古屋市立大学)

5. AACR 高松宮妃記念講演会開催の助成

(定款第4条第1項第3号、第4号)(公益目的事業5)

米国癌学会(AACR)の2025年の年会において、第19回AACR高松宮妃記念講演が実施された。講演者の選定は、オンライン会議方式によるAACR選考委員会において行われ、記念講演は次のとおり実施された。なお、同年会には、財団を代表して当財団学術委員の村上善則博士が出席し、記念講演賞の贈呈を行うとともに、高松宮妃殿下並びに財団の紹介を行った。

講演者: Ronald A. DePinho 博士

米国・テキサス大学MDアンダーソンがんセンター教授

演題: がんの年齢: 本質的理解による抑止

講演日: 令和7年4月27日(日)

会場: 米国・イリノイ州シカゴ

マコーミックプレイスコンベンションセンター

DePinho 博士に対し記念の楯及び副賞1万ドルを贈呈した。

6. 機関誌「CANCER」の発刊(定款第4条第1項第5号)

令和7年度(第56号)機関誌CANCERを次のとおり発刊した。

発行日: 令和7年7月25日(金)

発行部数: 700部

7. 運営体制の充実をはかるための取組

(1) 外部理事及び監事選任の基本方針として、

外部理事には、

がん研究についての専門的知見と豊富な経験を有する研究者

金融政策・金融システムに精通し、金融に関する高度な専門知識と企業経営に広い知見を有する専門家

法務・コンプライアンスに精通する法曹界の専門家

企業経営に長年携わり、経営の諸問題に精通する経営者

財団の設立理念に賛同し、財団支援を継続している寄附者

等、専門知識・経験を有する多岐にわたる理事を選任している。

監事は、

金融に関する専門知識と金融機関経営に幅広い経験を有する実務家

会計・コーポレートガバナンスに関する高い見識を有する公認会計士

であり、全て外部監事である。

(2) 外部理事・監事の役割を全うするために、公益事業の実施に際して、その進捗状況を理事会で報告した上、学術賞・研究助成金等贈呈式については、出席を求めている。また、国際シンポジウムの開催にあたっては、がん研究者を含む理事・監事・評議員に出席を求めて、事業の実施状況を掌握してもらうこととしている。

- (3) 評議員については、財団の基本方針に基づき、外部理事・監事の選任に準じ、がん研究者、法曹界専門家、元官界幹部、元経済界経営者、財団支援を継続する寄附者等が選任されている。

第3章 管理事項

1. 会議等に関する事項

(1) 令和7年度第1回理事会（通常）

開催日：令和7年6月3日（火）

開催場所：ザ・プリンスさくらタワー東京（東京都港区高輪3-13-1）

出席者：理事8名（総数10名）・監事2名（総数2名）

議案：① 令和6年度事業報告及び決算について

② 会計監査人の報酬の変更について

③ 令和7年度第1回評議員会（定時）の開催について

④ 評議員候補者について

⑤ 定款の変更について

⑥ 役員、評議員及び顧問の報酬等並びに費用に関する規程の変更に
ついて

審議結果：提案された6件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決
された。

報告事項：常務理事より、定款第33条第4項に基づき、理事長及び常務理事の職務
執行状況につき報告が行われた。

(2) 令和7年度第1回評議員会（定時）

開催日：令和7年6月18日（水）

開催場所：ザ・プリンスさくらタワー東京（東京都港区高輪3-13-1）

出席者：評議員8名（総数12名）

理事長

常務理事

監事2名

議案：① 定款の変更について

② 令和6年度事業報告及び決算について

③ 役員、評議員及び顧問の報酬等並びに費用に関する規程の変更
について

④ 評議員の選任について

審議結果：提案された4件の議案につき、審議の結果、異議なく承認可決された。

(3) 令和7年度第2回理事会（臨時）

開催方法：決議の省略の方法

提案事項：① 山口建理事長（非常勤）の報酬額を変更する件
（令和7年7月8日（火）提案書発送）

提案結果：理事長が、理事会の目的である上記事項につき理事及び監事の全員に提案し、同提案につき、特別の利害関係を有する理事を除く9名の理事全員から書面による同意の意思表示を、また、監事全員から書面により異議がない旨の意思表示を得たので、定款46条第2項に基づき理事会の決議があったものとみなされた。

理事会の決議があったものとみなされた日：令和7年7月15日（火）

(4) 令和7年度第3回理事会（臨時）

開催日：令和7年11月27日（木）

開催場所：ザ・プリンスさくらタワー東京（東京都港区高輪3-13-1）

出席者：理事10名（総数10名）・監事2名（総数2名）

議案：① 令和8年度の主要事業について
② 学術委員会規程の改定について
③ 令和7年度第2回評議員会（臨時）の開催について

審議結果：提案された3件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

報告事項：常務理事より、定款第33条第4項に基づき、理事長及び常務理事の職務執行状況につき報告が行われた。

(5) 令和7年度第1回学術委員会

開催日：令和7年12月4日（木）

開催場所：ザ・プリンスさくらタワー東京（東京都港区高輪3-13-1）

出席者：学術委員10名（総数10名）

理事長

常務理事

- 議 案：① 令和 7 年度研究助成金受領候補者の審査、選考について
- ② 令和 7 年度学術賞受賞候補者の審査、選考について
- ③ 令和 8 年度（第 43 回）国際講演会の講演者決定について
- ④ 令和 8 年度（第 20 回）中原記念講演受賞者の決定について
- ⑤ 令和 9 年度（第 55 回）国際シンポジウムのテーマ、組織委員長の決定について

- 審議結果：① 257 名の申請者の内、第 5 章・附属明細書・表 1 に記載の 39 名が選考された。
- ② 14 件 13 名の候補者の内、第 5 章・附属明細書・表 2 に記載の 2 名が選考された。
- ③ Dan A. Landau 博士（米国・Professor of Physiology and Biophysics, Weill Cornell Medicine）を第一候補、Zhi Jian Chen 博士（米国・UT Southwestern Medical Center）を第二候補とすることを決定した。開催場所及び時期については、講演者との調整によることとした。
- ④ 第 54 回国際シンポジウムにおける本賞受賞者として、Kristian Helin 博士（英国・ロンドン癌研究所最高経営責任者兼所長）が選考された。
- ⑤ 第 55 回国際シンポジウムは、佐谷学術委員および中釜学術委員が推薦する組織委員長と協議のうえ最終テーマを決定し、学術委員会に報告の後に、理事会に諮ることとなった。

(6) 令和 7 年度第 4 回理事会（臨時）

開催方法：決議の省略の方法

- 提案事項： 第 1 号議案 令和 7 年度研究助成金受領者の決定について
- 第 2 号議案 令和 7 年度学術賞受賞者の決定について
- 第 3 号議案 令和 8 年度（第 43 回）国際講演会の実施について
- 第 4 号議案 令和 8 年度（第 20 回）中原記念講演賞受賞者の決定について
- 第 5 号議案 令和 9 年度（第 55 回）高松宮妃癌研究基金国際シンポジウムのテーマおよび組織委員長の決定について
- （令和 7 年 12 月 11 日（木）提案書発送）

提案結果：理事長が、理事会の目的である上記事項につき理事及び監事の全員に提案し、同提案につき、理事全員から書面による同意の意思表示を、また、監事全員から書面により異議がない旨の意思表示を得たので、定款 46 条第 2 項に基づき理事会の決議があったものとみなされた。

理事会の決議があったものとみなされた日：令和 7 年 12 月 18 日（木）

(7) 令和 7 年度第 5 回理事会（通常）

開催日：令和 8 年 3 月 12 日（木）

開催場所：ザ・プリンスさくらタワー東京（東京都港区高輪 3-13-1）

出席者：理事 10 名（総数 10 名）・監事 2 名（総数 2 名）

議案：① 「AACR 高松宮妃記念講演会開催の助成」事業の継続について

② 次期学術委員の選任について

③ 顧問の選任について

④ 事務局長の選任について

⑤ 令和 8 年度事業計画について

⑥ 令和 8 年度収支予算について

⑦ 令和 8 年度資金調達及び設備投資の見込みについて

審議結果：提案された 7 件の議案につき、審議の結果、異議なく承認可決された。

(8) 令和 7 年度第 2 回評議員会（臨時）

開催日：令和 8 年 3 月 12 日（木）

開催場所：ザ・プリンスさくらタワー東京（東京都港区高輪 3-13-1）

出席者：評議員 11 名（総数 14 名）

理事長

常務理事

監事 2 名

議案：① 令和 8 年度事業計画について

② 令和 8 年度収支予算について

③ 令和 8 年度資金調達及び設備投資の見込みについて

審議結果：提案された 3 件の議案につき、審議の結果、異議なく承認可決された。

2. 内閣府公益認定等委員会への報告、申請等に関する事項

(1) 令和 6 年度事業報告等の提出	令和 7 年 6 月 24 日 (火)
(2) 変更の届出(定款の変更)	令和 7 年 7 月 2 日 (水)
(3) 変更の届出(役員等に対する報酬等の支給の基準の変更)	令和 7 年 7 月 2 日 (水)
(4) 変更の届出(評議員の 2 名増員)	令和 7 年 7 月 18 日 (金)
(5) 令和 8 年度事業計画書等の提出	令和 8 年 3 月 30 日 (月)

3. 内閣府からの連絡事項等

内閣府から公益法人宛には、不定期にメールにより情報連絡が行われる他、原則隔週水曜日に「内閣府 公益法人メールマガジン」が発行され、公益認定等委員会からの伝達事項、公益法人への依頼事項、公益法人の現況と運営へのアドバイス、テーマ別セミナーや相談会のお知らせ等が記載されている。この情報連絡に関し、令和 7 年度に対応した事項はない。

第 4 章 受取寄附金に関する事項

当財団の公益目的事業は、経常収益を構成する基本財産運用益、特定資産運用益、受取寄附金、雑収益で運営されている。受取寄附金は、高松宮妃殿下が関係された様々な法人から毎年お届けいただく寄附金、妃殿下と世代を超えて何らかのご縁の続く多くの皆様からの継続的なご寄附、妃殿下の「がん撲滅」の悲願に賛同された日本中の皆様からのご寄附などであり、経常収益の重要な位置を占める。

当事業年度に受け入れた寄附金は以下のとおりである。

・ 法人	43 件	30,435,901 円
・ 個人	140 件	33,573,124 円
・ 法人個人合計	183 件	64,009,025 円

第1章の概況に記載のとおり、当年度は、ご遺贈を含む大口寄附や多数の個人の方々からのご寄附をいただき、当初予算の27,000千円を大幅に上回る2.4倍の64,009千円の寄附金を受け入れることが出来た。

第5章 附属明細書

表1 令和7年度研究助成金受領者名簿

以下の受領者に対し、1件当たり200万円の研究助成金を贈呈した。

代表研究者氏名	所 属 ・ 職	研 究 題 目
足 立 典 隆	横浜市立大学 生命ナノシステム科学研究科 教授	ゲノム安定性維持におけるミスマッチ修復の 機能解明とがん治療への応用
有 馬 好 美	藤田医科大学 腫瘍医学研究センター 客員准教授	合成致死メカニズムとオプトジェネティクスを 応用した遺伝性がんの予防基盤および治療法 開発
飯 田 忠	名古屋大学 医学部附属病院 光学医療診療部 病院助教	膵癌におけるpHによる間質形成機構の解明
伊 川 友 活	東京理科大学 生命医科学研究所 免疫アレルギー部門 教授	血液前駆細胞を利用した生体内CAR-NK細胞誘導 法の開発
生 島 弘 彬	東京大学医学部附属病院 呼吸器内科 助教	メチオニンサルベージ経路を標的とする合成致 死戦略の開発
石 本 崇 胤	がん研究会がん研究所 発がん研究部 部長	造血インバランスから生み出される血小板によ る腫瘍線維化機構の解明
磯 田 健 志	東京科学大学 発生発達病態学分野小児科 准教授	ゲノムの3次元構造による白血病のサブタイプ 診断と治療反応モニタリング法の開発
伊地知 秀明	東京大学医学部附属病院 病態栄養治療センター 准教授	膵癌のKRAS阻害剤抵抗性獲得機序の解明および 抵抗性を克服する新規治療法の開発
井 上 大 地	大阪大学 大学院医学系研究科 がん病理学教室 教授	血液がんにおける転写後・翻訳制御機構の解明と 治療応用
小 川 亜希子	東北大学 大学院薬学研究科 薬学部モドミクス薬学分野 准教授	RNAモドミクスによる血液がん治療 合併症の病態解明
笠 島 裕 明	大阪公立大学 大学院医学研究科 消化器外科講座 講師	中皮細胞を由来とする腫瘍免疫関連線維芽細胞 を標的としたがん免疫制御解除の試み
金 関 貴 幸	新潟大学 大学院医歯学総合研究科 分子細胞病理学分野 教授	がんダークプロテオームの免疫標的化に資する 抗原解析技術基盤の開発

代表研究者氏名	所 属 ・ 職	研 究 題 目
金 谷 信 彦	岡山大学 学術研究院医療開発領域 低侵襲治療センター 助教	腫瘍関連間葉系間質細胞による腫瘍免疫制御機構の解明
川 上 尚 人	東北大学 大学院医学系研究科 臨床腫瘍学分野 教授	進行・再発胃癌におけるHER2診断の精度と施設間乖離の検証およびAI支援診断構築に向けた画像・臨床データ基盤の整備
川 崎 健 太	慶應義塾大学 医学部腫瘍センター 助教	神経内分泌癌の臨床表現型に寄与する転写因子ネットワーク摂動の解析
國 本 博 義	横浜市立大学 医学部血液・免疫・感染症内科 講師	がんゲノム異常に基づく高リスク骨髄異形成・骨髄増殖性腫瘍の分子基盤と個別化治療の研究開発
小 島 康	愛知県がんセンター研究所 がん病態生理学分野 主任研究員	代謝異常関連脂肪肝炎 (MASH) の新規血液バイオマーカーの開発
菰 原 義 弘	熊本大学 生命科学部細胞病理学講座 教授	リンパ節老化を介したがん免疫療法への治療抵抗性メカニズムを解明し免疫老化を予防する
近 藤 泰 介	慶應義塾大学 医学部先端医科学研究所 がん免疫部門 特任准教授	アミノ酸欠乏環境におけるT細胞の翻訳制御機構の解明と新規T細胞移入療法の開発
齊 藤 康 弘	慶應義塾大学 先端生命科学研究所 分子腫瘍グループ 特任准教授	細胞内小器官依存的なアミノ酸機能解明に向けた技術開発
佐々木 信成	がん研究会 がんプレジジョン医療研究センター がん免疫制御プロジェクト 特任研究員	染色体不分離に伴う二本鎖RNA認識経路を介した抗腫瘍免疫応答
佐 藤 卓	日本医科大学 大学院医学研究科 代謝・栄養学分野 大学院教授	患者由来がんオルガノイドモデルを用いた、抗がん剤耐性細胞の生存原理と脆弱性解明
柴 田 淳 史	慶應義塾大学 薬学部分子腫瘍薬学講座 教授	化学放射線治療後の腫瘍微小環境内に発生する免疫抑制マクロファージ発生までの細胞系譜の同定と制御方法の開発
高 場 啓 之	東京大学 大学院医学系研究科 病因・病理学専攻免疫学 教授	がん局所における階層的免疫抑制回路の解明と選択的シグナル経路標的がん免疫療法の開発
滝 澤 仁	熊本大学 国際先端医学研究機構 教授	脳-腸管軸制御を基盤にした革新的骨髄移植技術の開発
樋 田 京 子	北海道大学 大学院歯学研究院口腔病態学分野 血管生物分子病理学教室 教授	腫瘍血管内皮細胞老化関連分子を標的としたがん関連血栓症治療法の開発

代表研究者氏名	所 属 ・ 職	研 究 題 目
日 比 野 沙 奈	国立がん研究センター 腫瘍免疫研究分野 特任研究員	がん免疫療法抵抗性に寄与する新規腫瘍内T細胞 サブセットの特性解明
平 田 英 周	金沢大学 がん進展制御研究所 腫瘍細胞生物学研究分野 教授	がん脳転移微小環境のグリアネットワーク制御 と治療への応用
平 林 享	佐々木研究所 腫瘍メタボロミクス研究部 部長	がん悪液質による脂肪組織消耗と腫瘍進行を つなぐ臓器間相互作用の解明
平 林 茂 樹	九州大学 大学院医学研究院 プレシジョン医療学分野 助教	膵癌におけるKRAS標的タンパク質分解誘導薬の 網羅的な治療抵抗性変異同定とその機序解明
前 田 高 宏	九州大学 大学院医学研究院 プレシジョン医療学 教授	成人急性骨髄性白血病の発症と進展における胎 児型造血プログラムの意義の解明
眞 杉 洋 平	東海大学 医学部医学科 基盤診療学系病理診断学 教授	膵癌におけるT細胞排除機構の解明による新規な 免疫・間質治療法の開拓
松 井 崇 浩	大阪大学 大学院医学系研究科 病理診断科 准教授	組織常在性マクロファージに着目したがん早期 検出法の研究
丸 山 達 生	神戸大学 大学院工学研究科 教授	がん細胞に自己組織化型抗がん剤を生産させる 新規創薬戦略
水 野 桂	京都大学医学部附属病院 泌尿器科 助教	腫瘍不均一性に着目した進行前立腺癌における 薬剤耐性獲得機構の解明と新規治療開発
明 神 悠 太	大阪大学医学部附属病院 消化器内科 医員	GDF15を介した肝細胞癌における細胞間相互作用 の解明と新規治療バイオマーカーとしての臨床 応用
森 嶋 達 也	熊本大学 国際先端医学研究機構 森嶋研究室 特任講師	tRNA修飾異常による骨髄異形成症候群発症メカ ニズムの解明
矢 崎 亮	九州大学 高等研究院 准教授	革新的中分子ペプチドによる抗がん剤開発
依 田 成 玄	京都大学 医学研究科腫瘍生物学講座 特定准教授	希少骨髄性悪性腫瘍の病態解明に向けたモデル 構築と治療法探索

(五十音順 敬称略)

表 2 令和 7 年度高松宮妃癌研究基金学術賞受賞者名簿

以下の受賞者に対し、1 件当たり 500 万円の賞金を贈呈した。

受賞者氏名	所属・職	研究業績
大 谷 直 子	大阪公立大学大学院 医学研究科 教授	がん微小環境における細胞老化随伴 分泌現象(SASP)の誘導機構と役割の 解明、がん予防・治療への応用
光 富 徹 哉	和泉市立総合医療セン ター 総長 近畿大学医学部 特別招聘研究教授	肺がんの個別化治療に関わる基礎的 および臨床的研究

(五十音順 敬称略)